

# 中国から伊 華氏を招き、 冠婚葬祭総合研究所が特別講演会を開催



友好の記念品の贈呈

熱心な聴講者がセミナーを見つめた

2017年11月6日、東京・芝公園にある機械振興会館に約80名の参加者を集め、『株式会社冠婚葬祭総合研究所』主催の特別講演会が開催された。当日の講演のテーマは「中国葬祭業界の革新と発展」。

登壇したのは中国葬祭協会専門家委員会事務局長で『福寿園国際集団』CBO(ブランディング最高責任者)の伊華(Yi Hua)氏。約1時間30分、中国語の講話が通訳を介して日本語に訳されていった。

『福寿園国際集団』は1994年設立の上海に本社を置く大手葬儀社。香港市場に上場し霊園事業を中心に、18省に48のグループ会社を展開し、業績を伸ばしている。冠婚葬祭総合研究所とは継続的に交流を行っている。

講演は①業界の現状、②業界の新たな成果、③将来の見通し、④国際交流の展開の順で進み、「いかにして商品・サービスの付加価値を高め、自社の存在をどの領域に発揮していくか」といったポイントが解説されていった。

まず①では、中国の高齢化や都市化にスポットを当て、最新データを参照しながら状況を解説。高齢化に伴う死亡率の伸びによって、葬祭業が今後は大きな市場になっていくと予測した。

さらに、都市化によって家庭の収入が全体的に増加している傾向を挙げ、葬祭業界が高成長を続けて

いる理由を解説した。

②については、土地を節約するという発想によって「小型化」「多様化」した霊園の商品や、生前契約などの“新たなサービス”の他、仮想現実(VR)を活用したネット上での霊園紹介といった、先進技術を駆使して構築した葬儀のワンストップサービスのシステムが紹介された。

さらには、深刻な大気汚染を中心とする環境改善を視野に——。火葬時に発生する有毒なガスの排出を防ぐ新型の環境保護火葬機の開発についても解説された。

③に関しては、資源節約や環境保護といった国策に沿った霊園づくりや葬儀の在り方を紹介。霊園のグリーン化を実現する新しい墓石や埋葬方法の解説が行われた。

④では、葬祭業界先進国との交流を積極的に推進しつつ、中国葬祭の文化遺産を世界に広めていく活動も紹介し、世界中の同業者との交流・連携を加速させていくことが報告された。

講演終了後、質疑応答が行われ、その後、伊氏から冠婚葬祭総合研究所代表取締役の藤島安之氏に友好の記念品が贈呈された。

講演後の懇親会では、くつろいだ雰囲気の中で参加者との情報交換が活発に行われた。